

事業計画書

(※市ホームページに掲載予定ですので、できる限りわかりやすく記載してください。)

団体名 こもたの推進委員会

1 事業種別	行政提案型
※行政提案型事業テーマ	(事業種別が行政提案型事業の場合のみ記入) 市の魅力を発信し、広報でひろがるまちづくり
2 事業名	こもたのまっぷ～子育て応援情報とまちの魅力発信～
3 事業を行おうとした動機・必要性	団体発足のきっかけは、宝塚市が、平成 29 年（2017 年）3 月に「お互いさまがあふれるまち 宝塚」を基本理念とする「エイジフレンドリーシティ宝塚行動計画」を策定し、その一環として平成 30 年度から市民参加による縁卓会議を発足させ、子育て支援世代が集い情報交換を行う「居場所」部会に参加したことです。行政職員、市内事業者、宝塚市民、地域団体が共に「お互いさまがあふれるまち 宝塚」の実現に向けて議論を交わし、今何ができるかアイデアを出し合い、子育てに関する情報の発信や情報周知のためのイベントの企画運営を行いました。 行動計画が令和 3 年（2021 年）3 月 31 日で期間満了となったことに伴い、居場所部会は解散しましたが、継続して「世代間交流」「地域ぐるみの子育て」をテーマに活動したいと考え、任意団体として「宝塚ミライキャンパス（現団体名 こもたの推進委員会）をコロナ禍で立ち上げました。 子どもたちの育ちは本来、親だけでなく、地域全体で支えて育んでいくものです。しかし今の社会では核家族化が進み、子育て世代は地域社会から孤立しており、手助けしてくれる親戚もない中での子育ては不安でしんどいものとなり、少子化も進む一方です。こうした地域での孤独な育児環境を解決すべく、2020 年に「地域で子育て応援プロジェクトこもたの(子育てをもっと楽しくの略)」を宝塚市内 9 つの子育て支援団体とともに立ちあげました。 各種イベントを実施し、市内の子育て支援に関するアンケートも行いました。その中で一番多かった意見が、「宝塚に住んでいても知らないことが多い」です。 例えば、行政の子育てに関するサービス、子育て支援拠点（子ども家庭支援センターや児童館や保育園、地域の子育てグループなど）、市内のイベント情報や観光、特産品など、宝塚市内には多くの魅力的なモノ（物）、コト（事）、バ（場）があるにも関わらず、多くの子育て世代に届かず伝わっていないようです。また、子育て情報が一元化されていないという事が挙げられます。担当部署の縦割りの影響も大きく、事業名や説明には専門用語が多く、一般市民に内容がわかりづらく、伝わりにくいです。 そもそも、市民が行政サービスにたどり着くにはハードルがいくつもあり、その人が必要としている情報にたどり着くまでに時間と労力を要します。また、市役所に出向かなくては詳細がなかなか理解できないものも多くあります。乳幼児を育てている保護者は慣れない育児への不安や心身ともに生じる負担と、母親であれば産後のホルモンの影響などでメンタルも不安定で睡眠不足も重なってきて、正しい子育てに関する情報を得るのはなおさら困難です。 また、民間からの情報に関しては、発信形態がさまざま、宝塚市内で子育てをするために生かせる情報があるのかどうかも分かりにくく、情報が多すぎるが故の情報難民になりがちです。

上記についての課題を解決するため、宝塚市に特化した子育て応援活動情報や、まちの魅力を、ウェブ、SNS、紙媒体、イベントなどの複数のメディアを掛け合わせ、「こもたのまっぷ」という形で、宝塚市の子育て世代はもちろん、市民、市内事業者にも届けたいと考えています。

4 事業を行う目的と期待される効果

【目的】

地域団体や事業者、行政が協働で、子育てに関する活動や行政サービス、まちの魅力を Web ページ、紙媒体、SNS、イベントなど複数のメディアを使って広報する（メディアミックス）ことにより、行政や地域団体、事業者が伝えたい情報だけでなく、事業の意図や活動者の想いを届けることができる。それにより、行政サービスや地域の子育てに関する活動などが多くの目に留まり、サービスを受ける、活動やイベントに参加するなどといった、関心惹起から行動変容に繋げる。

【期待される効果】

① 知ること・学ぶこと

メディアミックスにより、各メディアの弱点も補いあい、市内全域に子育て応援情報とまちの魅力が伝わる。子育て世代は、出会いたいと思っている宝塚市の行政サービスや子育て応援活動の情報が一元化されているため、情報にスムーズにアクセスできるようになり、子どもを安心して見守り育てることができるようになる。また、子育て世代以外の市民は市内の子育て情報に触れる機会を得られ、理解を深めることができる。結果、地域ぐるみで子育てを応援する機運醸成と宝塚市に対する愛着を深めることにもつながる。

② つながる

特に孤立しやすい乳幼児期に、子育て支援施設や地域活動に足を運ぶ機会が得られることで、子育ての悩みや相談ができる仲間、サポートしてくれる子育て応援活動者と出会うことができる。長期的な視点でみると、子育てを応援してもらった世代が子どもの成長と共に応援する側になり得る、そして今後の地域での子育て応援活動の持続にも繋がる。

③ 共につくること

各メディアに掲載する記事の取材ライティングは宝塚市民を「市民ライター」として起用し、子育てに関する情報に限定せず、市内の観光やまちづくりに関することなど、まちの魅力につながる事を広く取材対象とする。そうすることで「このまちで子育てをできてよかった、暮らしてよかった」と感じられ、「このまちをよりよくしたい」と次のステップに踏み出す人との出会いも期待できる。また、子育てを通じて感じる課題などは、まちをよりよくするヒントが詰まっており、その意見交換の場所として、子育て世代や子育て応援者、子どもやまちづくりに関心がある人や団体を対象に、イベントや交流会などを実施。まちづくりに関する意見や、アイデア交換や実践を共にできる「協力体制」を生み出すことができる。その結果、本事業に多くの共感や理解が得られ、本補助金終了後も、市内事業者や市民から、寄付金や協賛金などを募りながら継続性のある事業として、共に発展させることができる仕組みを作ることができる。

5 申請までの検討経過

2020 年 10 月 任意団体として、宝塚ミライキャンパス（現 こもたの推進委員会）を発足し、「地域で子育て応援プロジェクト こもたの(子育てをもっと楽しくの略)」を立ち上げた。

2022 年 5 月 宝塚ミライキャンパス（現 こもたの推進委員会）、NP0 健康・生きがい就労ラボ、生活協同組合コープこうべが共同で、地域の高齢者から子どもまでが交流できる、「まちのつどいば ここおる」を宝塚市鶴の荘に開設した。

2023 年 5 月 「地域で子育て応援プロジェクト こもたの(子育てをもっと楽しくの略)」をより宝塚市全域で展開し、まちぐるみで子育てを応援する機運を高め、産学官民の連携を深めるために「こもたの推進委員会」を発足（宝塚ミライキャンパスから名称変更）

2025 年 5 月 メンバーで今後の活動について話し合う中で、子育て応援活動などの情報発信を地域団体だけでなく、産学官民が協力し、協働協創することの重要性を再認識した。また、市の施策や魅力を正しく知り、市政への関心や参画意欲を高め、参画するなど行動を起こすことは、本団体が目指す姿である「おたがいさまのまち」につながることから、本助成金の活用が必要との認識で一致した。

6 事業の内容

①ウェブサイト「こもたのまっぷ」を新設。

市内の子育てに関する情報やお出かけスポットを一覧化。カテゴリー分けやタグ付けをし、情報を探しやすくする。また、下記②に記載の紙媒体「こもたのだより」のデジタル版（PDF）及び記事化したコンテンツや下記③SNS を連携して取材記事を掲載する、紙媒体の弱点である、どこに置いているかが分かりにくい、在庫切れや配布数の制限があるなどを補う。

ウェブサイト完成時期（予定）：2025 年 7 月初旬

②紙媒体「こもたのだより」の発行

2023 年度から当団体では子育て情報シェアマガジン「こもたのだより」として、季刊誌を自主発行しており、今年度はより宝塚市や市内事業者や地域団体の紹介など、取材先を市内全域に広げて内容も充実させたいと考えている。

発行部数（予定）：3,000 枚

発行月（予定）：年間 2 回※2025 年 10 月と 2026 年 3 月を想定

配架場所：市内全域（市内の公的施設、社会福祉協議会、市内事業所、地域の子育て支援グループなど）

※子ども家庭支援センター、公立保育園幼稚園、各児童館、コープ神戸の 10 店舗は昨年度設置実績あり

市民ライターを募り、宝塚市内の子育て応援施設や活動者、事業の紹介、子ども連れでも入りやすいお店やお出かけスポット、西谷地区の農産物などを取材し、紙面で紹介する。（上記①ウェブサイトにも、コラム記事として掲載）取材の様子は SNS でもリアルタイムで紹介する。

（参考）過去に発行した紙面テーマ

- ・ 末広公園大解剖（防災公園である大型公園の全体像をイラストでマップ化）
協力：公園河川課、総合防災課
- ・ 宝塚の食を知る（学校給食のここがすごい、幼稚園保育園の食育について）
協力：学校給食課、保育企画課、教育委員会
- ・ たからづかの今と昔（宝塚温泉と宝塚歌劇場の歴史、ホテル若水社長インタビュー）
協力：ホテル若水、第一小学校まちづくり協議会、宝塚市立中央図書館

③SNS での発信

こもたのプロジェクトの既存アカウントを活用予定（Instagram、Facebook の 2 種）

地域活動団体紹介、市内のおすすめスポット、各種イベント情報などを発信。各種イベント情報は公募フォームを作成し、広く募集し、掲載する。（市の情報は、担当課と連携）

上記①ウェブサイト「こもたのまっぷ」や各事業主体のウェブなどへ連動できる導線を視野に入れて投稿予定。

実施期間：すでに運用しているアカウントのため、本事業の実施期間前後も継続して発信予定。

※個人ウェブサイトやタブロイドにおける著作権等の処理について

上記①～③は、取材対象者に対して事前打ち合わせや取材依頼書を提出し、合意を得たうえで取材及び記事を掲載する。また取材で得た個人情報などは当団体の事務所の施錠可能な場所に管理保管することとする。

④イベントの実施

産学官民が連携して、子育て応援イベントを実施。市内の子育て応援活動や宝塚市の子育てに関連する

事業を知ってもらう機会とする。上記①ウェブページ「こもたのまっぷ」や③SNSなどとも連動あい、イベントの立ち上げから当日までを追うことで、イベントに来られない人にも広く本事業のことを知ってもらえるようにする。

・開催予定日

5月10日(土)11日(日)※実施済 「KIDS フェス in たからづか」

包括連携企業・大学の協力のもと、ワークショップやお仕事体験ブース、ゲームコーナーなどを実施。

場所：宝塚市立中央公民館 参加人数：約1,000人

5月27日(木)・7月25日(金)・10月16日(木)・12月18日(木)・2月24日(火)

「こもたのひろば〜あつまれ！0・1・2才さん！〜」

地域と繋がりが薄い乳幼児期に地域の子育て情報に出会える機会として、親子遊びやハイハイレースなどのおやこで参加できるイベントを実施予定。7月は中高生ボランティアを募り、企画運営を共に担ってもらう。

場所：フレミラ宝塚 参加想定人数：700名

2025年7月21日(祝日)「ここおる縁日」

コープこうべが運営している「まちのつどいば ここおる」と隣接している市場(昭和時代には市内随一だったが、今は高齢化により2店舗のみ営業)を活用し、まちのにぎわいをつくるための縁日を企画。

場所：まちのつどいば ここおる(鶴の荘)と太平市場内 参加想定人数：150名

2025年12月13日(土)

「こもたのカーニバル」

過去4回実施している、市内最大級の子育て応援イベント。ワークショップやミニステージなどを実施予定。地域活動団体、市内事業者など20団体程度に出店協力を募る予定。

場所：宝塚市立文化芸術センター 参加想定人数：1,500名

7 市の担当課との事前協議の経過(事業種別が行政提案型事業の場合のみ記入)

【第1回】5月1日

広報課へ事前相談。事業内容が行政提案型事業に沿った内容であるのか確認を行った。事業の方向性はよいが、事業内容についてより具体を明らかにすること、提案書の書き方への注意事項などのアドバイスをいただいた。

【第2回】5月7日

第1回の相談を踏まえ、申請書記載の内容について相談。市の広報における課題をどういった取り組み・仕組みで解決していくのかを具体的に記載すること、持続可能かを示すようアドバイスをいただいた。

【第3回】5月14日

広報課から申請書記載内容についてチェックしていただき、記載内容の一部修正やプレゼンテーションの際の注意事項等についてアドバイスをいただいた。

8 実施する安全対策

イベント会場準備・環境整備

- ・会場の広さと動線を事前に確認し、参加者が密集しないよう十分なスペースを確保する(目安：4㎡×人数以上)

スタッフ体制・役割分担

- ・イベント責任者を明確にし、危機発生時の指揮命令系統を整備する。
- ・緊急連絡体制(警察・消防・市等)を事前に確認し、スタッフ間で情報共有する。

事故・トラブル発生時の対応

- ・軽度の負傷は本部で応急救置、重傷時は速やかに消防へ連絡し医療機関へ搬送。